

『伝えることは面白く、 また難しい』

筒井 真理子 (昭和 54 年卒)

出身地：山梨県 早稲田大学卒業

経歴：早稲田大学在学中より鴻上尚史主催「第三舞台」に参加。代表作は「ビー・ヒア・ナウ」ピルグリム」等。その後、舞台をはじめ映画・テレビ・CMと幅広く活躍。'94年映画「男ともだち」(山口巧監督/東京国際映画祭参加作品)で主演デビューをはたす。以後、多彩な作品に出演。主な映画出演作品に「クワイエットルームによるこそ」(松尾スズキ監督)、「アキレスと亀」(北野武監督)、「ヒーローショー」(井筒和幸監督)他多数
11年11月～12年1月第三舞台 封印解除 & 解散公演「深呼吸する惑星」に出演

茂田オフィス
〒107-0052 東京都港区赤坂 9-5-29-303
Tel 03-5410-8585 Fax 03-5410-0588

私の続けている「俳優」という仕事は、演技を通して観客に目に見えない何かを伝えることだと思っています。ですが、この伝えることこそが難しく「実は世の中の半分以上は誤解の上に成り立っているんじゃないか？」と思うこともあるくらいです。例えば、私はどちらかというと話して説明するのが苦手です。言葉を誤解されて「そういうつもりじゃないのに」と冷や汗をかくこともしばしば。思えば学生時代からそうでした。時には思いがけず都合よく解釈してもらえこともありましたが…。

短く切り揃えた襟足は当時でも斬新な仕上げで、私としては都会的なオシャレな仕上がりに満足していました。翌日、一高の講堂で集会があり、担任の先生の目に私の刈り上げが飛び込んだ様子で「全校生徒の皆さん！筒井さんを見なさい」と。



「先日パーマを注意したら、さっぱりと髪を切ってきました！筒井さんを見習ってください！」
私は先生の意外な言葉に耳を疑い、「えっ？いや、反省した訳じゃなくて…私的にはオシヤレのつもりなんだけど…」それからというもの、私に先生は目が合うたび優しい微笑みを向けてくれるようになりました。小さな誤解でしたが、先生との関係がよくなり、その時こう思ったのです。
「誤解から好転することもあるんだなあ」と。
今だから言えますが、髪を切った本当の理由は親しい友人にしか話しませんでした。

た。

また最近ではこんなこともありまして。私たち俳優は映画やドラマの仕事が決まると最初にあるのが、衣装合わせです。衣装合わせは、役のイメージを形作る大事な作業で、監督やスタッフと初めて顔を合わせる緊張の瞬間でもあります。まず衣装さんと監督が事前に打ち合わせて用意した衣装を一着ずつ広げ、みんなで検討することから始まります。

あるドラマの衣装合わせで、いつものように衣装さんが衣装を広げた時、私は瞬時に自分の役のイメージやシーンを頭の中に巡らせ考えました。「うーん…」その小さな呟きを聞いた瞬間、衣装さんはとっさに「ですよね…ちよっと地味過ぎましたね」と、素早く取り下げようとしたのです。

「あ、いえ、違うんです…大丈夫です。」私は衣装には何の不満もありませんでした。ただ衣装さんが私に氣遣って下さっただけで、いわゆる日本人の美德である「察する心」でした。でもそこには、確かに小さな誤解が生じてしまったのです。

山梨にいた学生時代から、どこか私は人と意見を分かち合うことに敏感だったのかもしれない。特に自分の気持ちや意図が伝わらず、歯がゆい思いをするのが多かったように思います。

ですが、自分の本意を上手く伝えることがいくぶん苦手で、毎日小さなもどかしさを感じていたことが、後に私を俳優という道に進ませたのかも知れないとも

思うのです。誰かと何かを共有したくて、伝えたく…でも言葉だけではうまく伝えられない。それが「演技」に向かわせたのかも知れないと今ではそんな気がしています。

大学で演劇の世界に入ると、舞台上での表現の難しさ、今まで経験のなかった集団でのコミュニケーションなど新たな壁ばかりでした。それでも、私は少しでも人に伝えることが上手くなりたいと過去の先人たちの本を読み漁りました。リー・ストラッスパーグの「アクターズスタジオ」「演劇入門」「朗読入門」etc…。その中に世阿弥の「花伝書(風姿花伝)」がありました。世阿弥が父・観阿弥の口述筆記をしたもので世界でも最も古い体系的に優れた芸術論だそうです。「花伝書」

を読んでいると、とても六百年以上も前に書かれたものとは思えません。今この私たちの演劇にも共通することばかりだと驚いたことをよく覚えています。「花伝書」を現代語訳した川瀬一馬さんも、序章でこう書いています。「花伝書は何回講じて、講ずる度に日に新たな感じである」

するのが良い。この写真とは変わった格好でやるのがかえって本当らしく見えるということ、一寸したことのようにだが、物まね全般にわたる工夫である。」
「問答条条」にはこうあります。
『どんな下手でも、もし善いところがあると思つたら上手なものもこれをまねるが良い。これが上達の第一の方法だ。上手の悪いところがあつたら未熟な自分にはさだめし悪いところが多いだろうと氣をつけ他人に尋ね、自分で工夫するならば、速やかに上達するであろう。慢心せず自分の良いところ悪いところを知るべし』

「物まね(能においての)はそっくりまねてみてもおもしろいとは思われない。ただどこかひと様子だけ唐めいた風に工夫

「花伝書」の中で世阿弥は「自家の子孫が能の専門家として守るべき教えを残した次第である。」と書いています。まさに「いにしへの心を今に伝えている」のです。それは演技論だけではなく、ものの考え方、とらえ方として今に通じているのです。

時を越えて人生の先輩たちが、そのすべを残してきてくれたことが頼もしく、今それを享受できることが有難く思います。そして「伝える」ことはなんと深く面白いことかと気付き、生涯をかけた私の仕事と実感しました。これからも一つ一つの役を丁寧に演じて行きたいと思えます。

